



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2013.1 第50号



提◆言

厳しい時代を乗り越えるためにやるべきこと

日本SPF豚協会理事 下山 正大
(有)下山農場 代表取締役

明けましておめでとうございます。

昨今の経済情勢は非常に厳しいものがあります。リーマンショックを境に世界の経済が大きく変わりました。わが養豚業界もそこで大きく変わりました。それまでは豚価が下がれば飼料価格も下がり、3年位のスパンでみれば必ず利益が出せました。しかし、今はコストの6割以上を占めるといわれる飼料代は高値安定、枝肉相場はデフレーションの影響もあり安値安定。非常に厳しいです。ですが、このような状況の中でも利益を上げている経営もあります。

農場間の差はかなり大きい やり方次第ではまだまだおもしろい産業

私はあるグループのベンチマーキング（55農場）に参加していますが、いろいろな点でかなり差があります。母豚1頭当たりの利益では、トップが約50万円、最下位が約12万円です。その差なんと38万円です。そのほかにもいろいろな項目がありますが、主なものは次の通りです。（2012年8月までの過去1年間）

	1位	最下位
母豚1頭当たり年間出荷枝肉重量(kg)	2013.1	1127.9
農場飼料要求率	2.90	4.25
平均出荷枝肉重量 (kg)	78.8	72.0
売上飼料比率 (%)	40.9	75.5
枝肉飼料費 (円/kg)	174.5	336.9

このように、まだまだ大きな差があります。生き残り競争なので、常に上位を目指すしかありません。SPF豚を導入している人は意識が高いと思います。SPFのルールをしっかり守っていけば、疾病の侵入リスクが低く、一般農場に比べれば相当生産性を上げることができると思います。ただし、現在はSPFというだけでは無理な地域もあります。

SPF養豚は少ない衛生費で生産性を上げるもの プレミアム販売はおまけと思うべき

元々SPF方式は生産性を上げるための一つの方法

です。これだけでは難しい地域では2サイト・3サイト方式あるいはグループシステム（スリーセブンなど）と合わせて取り入れればよい結果が出ます。生産性だけを求めるとハイブリッド豚もありますが、日本の食のニーズを考えると、私は難しいと思います。

日本のSPF豚を使うということは、病気を単純化させて生産性を上げ、なおかつ日本の食のニーズに合ったものをつくるということだと思います。このことは、私自身がハイブリッド豚からスタートしたので、自信を持って言えます。

SPF豚協会への要望と提案

今のSPF豚協会のスタッフ数と資金力を考えると、とても気の毒で言えませんが（ピラミッドに対してはそれなりの要望があります）、今後の厳しい時代を乗り越えるために、あえて要望と提案を考えてみました。

① SPF豚協会のホームページの強化

肉の販売につながるコマースをしっかりとやり、販売面のアクセスが増えるようにし、なおかつスマートフォンにも対応する（今のバイヤーはスマートフォンでのチェックが多いようです）。プレミアムはとれなくても、しっかりと売っていきましょう。

② 改良のスピードの妨げになるルールを変える

衛生レベルの維持に差支えがないようなら、変えられるルールは変えて改良のスピードを上げ、時代の変化に素早く対応することが重要です。特にCM農場では現状のルールを見直してもよいと思います。

③ SPF豚協会の認定農場のレベルアップ

年1回の認定更新の際にはレベルの低い農場をしっかりサポートして底上げをし、高いレベルの集団を維持するための努力をお願いしたい。

あとは、個々の農場がマネジメント力を高め、SPF豚の能力をフルに生かしながら、厳しい時代を乗り越えていきましょう。

SPF豚セミナーを 開催

二つの講演、生産成績年次報告
CM農場表彰など
参加者は150名と大幅増



昨年11月6日、東京都千代田区のKKRホテル東京において、恒例のSPF豚セミナーが開催されました。約150名という予想を上回る多くの皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。

当日は、協会会長挨拶、CM認定農場の生産成績年次報告に続き、「経費を抑えて既存豚舎をレベルアップする改造ポイント」と題し、(株)新原産業の新原弘二社長にご講演いただきました。

新原産業（宮崎県）は昭和51年設立の農畜産設備資材の総合メーカー。数々の現場経験を生かし、独自製品の開発に力を入れており、増改築の進め方、空調改善のポイント等貴重な経験をお話いただきました。

以下要旨をかいつまんでご紹介します。

「増改築を実行する際には、農場の将来像が鮮明でなければならない。また、増改築部分はその将来像に本当にマッチしているかを十分考慮する必要がある。不必要な増改築や、その場しのぎの改修は二重投資のもとであり、絶対にやってはいけない」

「農場リフォームチェックリストを作り、工事着工前に問題点を解決しておく（チェックリストは同社カタログに掲載）。特に法律に関することは工事関係者や専門家としっかり検討する」。

「現場で増改築を手掛けていくのに大事なことが二つある。一つは、増改築部分以外の関連要素も併せて検討すること。たとえば、内部施設を改修した時の糞尿ピットはこれでいいか、換気方式を変更したときの臭気の影響はどうか、など。二つ目は、舎内空調を十分に考慮すること。舎内の密閉度をパーフェクトにする。これをおざなりにすると、適切な換気ができないばかりか、冬季、豚に隙間風による寒冷ストレスを与えてしまい増改築をした意味がなくなってしまう。隙間を

見つけるには、まずしゃがんで豚の体高で舎内観察し、タバコの煙や蜘蛛の糸の動き等で空気の流れを見る。外気が冷たい時ほど隙間は見つけやすい。隙間ができやすい場所としては、波板スレート



新原 弘二・(株)新原産業社長

屋根と軒端の間、カーテンの端や下がり切った位置などだが、農場をよく観察することをお勧めする」。

「空調改善は、冬場と夏場ではやり方が異なるが、基本である密閉度の確保は変わらない。冬場はダクトファンやエアークャノン換気法の活用、加湿（適切な湿度は温度保持になり、湿度が上がると体感温度も上がる）、暖房機器とエアークャノンとの組み合わせ、低速回転ファンの活用等がある」。

「夏場はスレート屋根への石灰塗布や遮熱塗料の活用、カバーーフ工法による屋根の断熱補修、断熱シートを利用した簡易天井等がある。豚舎周りには寒冷紗を利用する。豚舎内はファンを活用するが、風は壁伝いに動くので、ファンおよび入気口の位置と高さは重要である。細霧装置とファンの組み合わせも冷却の効果が上がる。パド&ファン冷却の効果を上げるためには、パドへの給水は流下式より霧状にして吹きかける方がよい。豚舎内によどみを作らないよう、ゆっくり舎内空気を動かす工夫が重要となる」。

「増改築で目指すのは、ランニングコストを下げることだという意気込みで取り組む姿勢が大切だ。省力・省エネ・省コストを追求し継続的に提供するために、今後も努力を惜しまない」。



総合生産成績最優秀賞を受賞した
(有)フロイデ農場の勝木 伸社長

休憩の後、恒例となった生産成績最優秀CM農場の表彰式が執り行われました。

今回は表彰農場が一新、総合生産成績部門では北海道の(有)フロイデ農場が受賞、商品化頭数部門では岩手県の(農)八幡平ファームとカワムラSPFファームが同率1位となり表彰状とトロフィーが授与されました。



商品化頭数最優秀賞を受賞した
農事組合法人八幡平ファームの阿部日出夫組合長理事

フロイデ農場の勝木伸社長は「厳しい父親に反発してきたが、学ぶことも多かった。周りの協力でここまで来れたことに感謝したい」と挨拶、八幡平ファームの阿部日出夫組合長理事は「同規模の新農場共々商品化頭数26頭以上を目指したい」とにこやかに力強く宣言され、カワムラSPFファームの川村清一代表(8P「SPFのひと」参照)は、繁殖部門を担当されている奥さんの叱咤激励のおかげであると、感謝の気持ちを述べられました。



商品化頭数最優秀賞を受賞した
カワムラSPFファームの川村清一代表

最後に、「意外と知らない畜産の話」と題した押田敏雄・麻布大学獣医学部教授の講演がありました。お話は多岐にわたりましたが、いくつかご紹介します。日本の肉食文化：縄文時代には、鳥獣類のシカ・イノシシ・マガモ・ウミウ、海獣類のオットセイ・アザラシ・魚介類のフグ・マダイ・アサリ、海藻類のヒジキ等が食べられていた。538年、仏教が伝来、殺生禁止の教えの中、肉食禁止令が出された。しかし、秘かに牛・馬・犬・猿・鶏は食べられていた。奈良時代になると鹿・猪・鴨・熊は例外となり、山野の鳥類も薬

猟・薬喰いとして食べられた。江戸時代にはぼたん(猪)、もみじ(鹿)、さくら(馬)と称して食べられていた。

農家が家畜を飼育するようになった訳：天候依存の回避が大きな理由。耕種農家は天候次第で、生産に大きな波がある。家畜は昔は労働力として、また、ふん尿の肥料利用もあった。その後、食文化の欧米化により、食肉需要が増大し、畜産専門農家による大量生産が始まった。



押田敏雄・麻布大学教授

豚はなぜ子たくさんか：胎児の数に関与するのは卵子の数。出生直後の新生子豚の卵巣には、6~50万個の卵母細胞(卵子のほととの細胞)があるが、このうち排卵に至るのは1%以下、その他は成熟途上で死滅する。豚が他の家畜と異なるのは子宮の形状。馬(双角子宮)と牛(両分子宮)の中間タイプとされている。数多くの胎児を育てることが可能で、結果として子たくさんとなる。

草を食べているのに牛乳が白いのはなぜ：牛が草を食べると、草は牛の胃袋(大量の草を醗酵させる微生物がいる)で醗酵し、牛の体に必要な栄養成分に分解され、小腸から吸収される。これらの栄養成分は造血にも寄与し、乳成分は血液の成分によく似ている。乳腺で血液を濾過し乳成分が生合成されるからである。牛乳を作るには400~600倍の血液が必要とされる。つまり1リットルの牛乳を作るためには、400~600リットルの血液が必要なのである。

草を食べているのに牛乳が白いのはなぜ：牛が草を食べると、草は牛の胃袋(大量の草を醗酵させる微生物がいる)で醗酵し、牛の体に必要な栄養成分に分解され、小腸から吸収される。これらの栄養成分は造血にも寄与し、乳成分は血液の成分によく似ている。乳腺で血液を濾過し乳成分が生合成されるからである。牛乳を作るには400~600倍の血液が必要とされる。つまり1リットルの牛乳を作るためには、400~600リットルの血液が必要なのである。

牛乳が白い液体として見えるのは、不透明で水に溶けにくい微粒子(脂肪とカゼインミセル)を含んでいるからである。

これからの畜産環境問題対策：畜産業を発展させ、有望で魅力ある産業にするには、次の難問解決が待たれる。

- ① ウィンドウレス化やふん尿を長時間滞留させない構造等の畜舎改良
- ② 排泄量の低減化とふんの質の改善
- ③ ふん尿などの有効利用研究の推進(例えばバイオマスとして利用)

ローソニア感染症① (増殖性腸症)

東京農業大学教授 山本 孝史

本病は一般的には増殖性腸炎（英語の病名に忠実に訳せば増殖性腸症が正しい）と呼ばれていますが、本稿ではローソニア感染症としました。現在では原因が *Lawsonia intracellularis* と確定しているからです。本病の原因が確定したのは1990年代前半と比較的最近のことで、それまでは数種の *Campylobacter* が原因と疑われていましたが、感染実験が成立していませんでした。本病には急性型と慢性型があります。

原因： *Lawsonia intracellularis* は、小腸上皮細胞の細胞質内でのみ増殖する細胞内寄生の微好気性菌です。培養細胞を用いて試験管内での培養が可能ですが、きわめて難しく培養できる機会は限られています。また無細胞培地での増殖には成功していません。本菌をコンベシヨナル豚に接種すると増殖性腸症が再現できることから、第1次病原体であることは確かですが、ノトバイオート豚に本菌だけを感染させても発症せず、発症には腸内の常在菌が関与していることが実験的に明らかにされています。また本菌の特徴は、宿主域が広いことで、ハムスター、ウサギ、シカ、ウマ等にも同様の疾病を起こします。さらに最近、マウスやラットのげっ歯類が本菌の伝播に関与する危険性があるという実験結果も報告されていることから、ネズミ対策は重要です。

症状と病変： 本病には慢性型と急性型があり、それぞれ症状が異なります。慢性型では、症状は認められないうえ、認められても軽微で、飼料摂取量に変化はないのに発育にばらつきが見られる程度が多いようです。中には被毛粗剛、食欲不振、軟便～水様便を示すものもありますがあくまでも一部の豚です。2次感染により死亡することもあります、その割合は1～5%で



図3 壊死性腸炎（原図：参考文献2） 図4 増殖性出血性腸症（原図：同左）

す。慢性型は、離乳後3～4週、あるいは10～12週齢に多く見られますが、原因菌に対する豚の感受性は、2～20週齢の豚で変わりません。したがって、このように好発週齢が認められるのは、生産システムや疾病対策プログラム、特に豚群の組換えが関係していると考えられています。急性型は、4～12か月齢の月齢の進んだ繁殖候補豚などが罹患しやすく、出血とそれに伴う貧血が見られます。最初の症状として黒色タール便がみられ、次いで軟便化することが多いですが、便の性状に全く異常がなく、極度の貧血が認められて死亡する例もあります。急性型では発症豚の死亡率は50%に達します。

病変は、1)腸腺腫症、2)限局性回腸炎、3)壊死性腸炎、4)増殖性出血性腸症の4型に分けられます。腸腺腫症は2次感染のない慢性型で、図1のように回腸前部の粘膜に炎症が見られます。腸腺腫症の回復期（末期）が限局性回腸炎で、増成した粘膜により内腔が狭窄し、さらに腸壁が脆弱化して破裂することもあります（図2）。腸腺腫症に2次感染が起きると壊死性腸炎となります。図3は壊死性腸炎の回腸末端部で、腸管は拡張し、内部は増成した粘膜が壊死しています。一方、増殖性出血性腸症は急性型で、図4のように、回腸末端部の内部には凝固した血液が認められます。（以下次号）1

[参考文献]

- 1) Collins, A.M. et al. (2011). Colonisation and shedding of *Lawsonia intracellularis* in experimentally inoculated rodents and in wild rodents on pig farms. *Vet. Microbiol.*, 150, 384-388.
- 2) Smith, W.J. et al. (1990). A color atlas of diseases and disorders of the pig. Wolfe Publishing Ltd., 83-84.

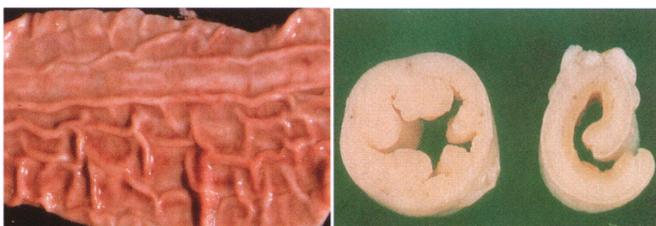


図1 腸腺腫症（原図：参考文献2） 図2 限局性回腸炎（原図：同左）

豚舎周辺に生息するハエ類の防除 I

イカリ消毒(株)技術研究所 木村 悟朗

3回にわたり主要な吸血性・非吸血性ハエ類についてまとめてきましたが、今号からは、それらハエ類の防除について解説します。

IPM(Integrated Pest Management; 総合的有害生物管理)

畜舎やその周辺から発生するハエ類は、伝染病や寄生虫の媒介(衛生害虫)や周辺住民などに不快感を与える(不快害虫)ために、大きな問題となることがあります。ハエ類の環境的防除は、主な発生源である家畜糞をハエ類の生活史より短い間隔で搬出することが基本となります。しかし、畜舎の構造や運営・管理から環境的防除のみでハエ類を制御することは難しいため、化学的防除(薬剤)が広く利用されています。一方、化学的防除によって薬剤抵抗性の発達したハエ類の出現した場合には、防除が困難となることもあります。近年、薬剤の環境への影響や食品の安全性に対する消費者や生産者の関心が高まり、薬剤のみに依存しないハエ防除技術が求められています。農業分野から提唱されたIPMの概念は、農業のみではなく建築物の衛生管理において広く普及しています。

国際連合食料農業機関(Food and Agriculture Organization: FAO)は、IPMを「あらゆる適切な防除手段を相互に矛盾しない形で使用し、経済的被害を生じるレベル以下に有害生物個体群を減少させ、かつその低いレベルに維持するための害虫管理システム」と定義しています。IPMは殺鼠剤や殺虫剤など薬剤を用いない防除方法であると解釈されていることがしばしばあります。しかし、IPMは防除方法ではなく概念であること、またあらゆる適切な防除手段(図1)を相互に矛盾しない形で使用することであり、薬剤の排除はIPMのねらいではありません。一方、IPMにおいて薬剤使用の適正化が重要な課題の一つであることは確かであり、薬剤はモニタリング等に基づいた適材適所の使用することにより、安全性は従来の薬剤施工と比べ

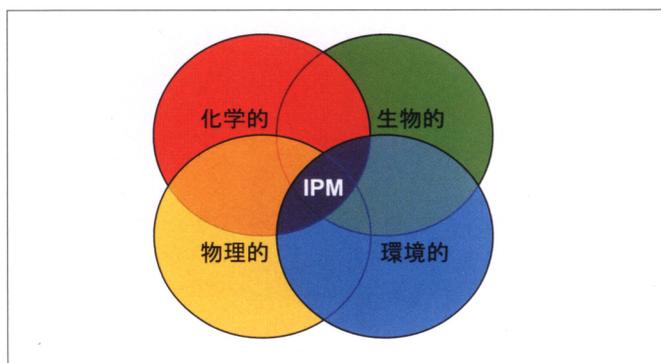


図1 IPMに基づくハエ類防除の概念図(木村・谷川(2011)を改変)。

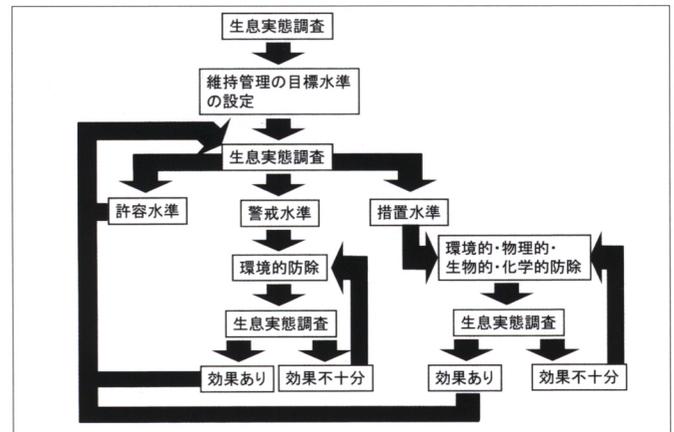


図2 IPMに基づく防除の進め方(木村・谷川(2011)を改変)。

て十分に高くなります。IPMは、対象種や発生場所を明らかにすることが基本となります。

IPMは様々な要素から構成されています。対象種や発生場所を明らかにすることが基本となるため、生息実態調査・モニタリングは重要な要素となります。畜舎やその周辺で発生するハエ類の種やそれらの生態は様々であるため、それらの生息状況を把握するためには、ある程度専門的な知識が必要な場合もあります。次いで、防除目標を設定します。目標水準は許容限度としての防除目標です。有害生物ゼロを目標水準(ゼロ目標)とすることがしばしば見られますが、IPMは衛生的・衛生的被害を生じるレベル以下に有害生物個体群を減少させることであり、ゼロ目標はIPMに必ずしも合いません。ゼロ目標は畜舎経営者には経済的、防除作業には精神的に大きな負担となることから、現場や区域に応じた許容値を定めて目標値を設定することが望ましいと考えられます。防除を実施した場合、その効果はモニタリングに基づいて客観的に評価します。モニタリングと効果判定は、同様の方法で得られたデータで比較する必要があります。あらかじめ設定した許容水準または目標水準の達成の判定は、防除の有効性の重要な判断材料のひとつとなります。許容水準に達しない場合には、再調査と再防除が必要となります。これらの要素からなるIPMに基づく防除は図2のように進めることが一般的です。

<参考文献>

木村悟朗・谷川 力(2011) 建築物におけるIPM. 設備と管理, 45(10): 56-61、日本ベストコントロール協会IPM検討委員会(2008) PCOのためのIPM 害虫別・施設別IPMマニュアル, 79pp. 日本ベストコントロール協会, 東京、田中生男(2008) 建築物におけるIPM実践ハンドブック-新しい理念に基づく総合的有害生物管理-, 291pp. 中央法規, 東京。

ちくさんフードフェアに3度目の出展 今回もしゃぶしゃぶの試食が大人気

協会では昨年10月6日(土)、7日(日)の2日間、神奈川県川崎市東扇島の(財)日本食肉流通センター内で開催された「ちくさんフードフェア」(川崎みなと祭りと同時間開催)に出展しました。

3度目の出展となった今回のフェアは、天気予報がはずれ2日目の午前中、かなりの雨となり、昨年に比べてやや減少したものの、11万人強の入場者があり、協会ブースは相変わらずの人気となりました。

協会ではSPFポークのしゃぶしゃぶを提供、試食した人を対象にアンケートを実施しました。回答した人に協会オリジナルTシャツが当たる抽選会なども行ないました。また、パネルの展示、協会・認定農場・SPFポーク加工品店舗のパンフレットやSPFポークリーフレットの配付、通販を含めたSPF豚販売情報を提供しました。

両日とも協会ブース前には長蛇の列ができ、来場者が殺到。準備した45kgのSPFバラ肉が、予想を上回るペースで試食完了しました。

またアンケートでは、地域別・年代別のSPFポークの認知度等、貴重なデータを収集することができました。今後の普及・促進に役立てていきたいと思えます。お手伝いいただいたピラミッドの皆さん、豚の着ぐるみを担当してくれた東京農業大学山本研究室の女子大生の皆さんには大変お世話になりました。ご協力に感謝申し上げます。



試食を待つ協会ブース前の長蛇の列(上)
豚の着ぐるみは子どもたちに大人気、女子大生が交代でがんばってくれていました(右)

今後もこうしたイベントを通じて、SPF豚認知度アップのための普及事業に取り組んでいきたいと思えます。



●協会からのお知らせ●

●地域研修会を2月に熊本県で開催します

3年前の口蹄疫発生の影響により直前での中止を余儀なくされ、その後延期となっておりました、認定農場を対象にした九州地区の地域研修会を2月に開催する運びとなりました。

日時は2月21日(木)午後1時より、場所は熊本市内の水前寺共済会館です。

該当地域の認定農場およびピラミッドには近日中に

詳細についてご案内をお送りいたします。高成績をあげている農場の特長や事例など、現場で役立つ情報を提供できる内容にしたいと考えております。

九州地区の会員の皆さまにはぜひともご参加いただきますようお願いいたします。

また、次年度継続事業として、今後他の地域でも随時開催していく予定です。ご意見・ご要望などありましたら事務局までお寄せください。

SPF豚肉とリーキネギの南蛮漬け

●レシピ提供・「四季海鮮 旬花」料理長 山田一美 (北海道函館市)

今回はちょっとめずらしい豚肉の南蛮漬けです。リーキネギはポロネギ・西洋ネギもいわれる下仁田ネギに似た西洋野菜。最近はスーパーなどでも見かけるようになりました。甘みがあってにおいも少ないのでSPFポークとの相性も抜群のようです。ぜひお試しください。

●材料●

SPF豚バラスライス 100g
リーキネギ (または長ネギ) 1本
レモン 4分の1個
鷹の爪 1本
トマト 適量、パプリカ 適量
小麦粉 適量、油 適量
タルタルソース 適量

<南蛮酢>

出し汁 360cc、みりん 90cc、薄口しょうゆ 90cc、酒 90cc、
酢 90cc、うまみ調味料 少々

●つくり方●

- ① リーキネギは縦半分に切ります。
- ② 豚バラスライス肉を広げて①を巻き、小麦粉を付けて180℃の油で揚げます。
- ③ ②を容器 (トレイ、タッパーなど) に入れ、合わせておいた南蛮酢をひたひたになる位かけ、スライスしたレモンと鷹の爪を加えます。
- ④ 30分ほど置いて味をなじませ、トマト、パプリカなどと一緒に盛り付けて、お好みでタルタルソースをかければ完成です。

【山田シェフからひとこと】

ネギは長ネギでも十分おいしく作れます。日持ちもするので多めに作っておけば、ごはんのおかずでも酒の肴としてもすぐに出せる一品です。



●認定情報●

●平成24年度認定農場

[12月認定]

(有効期間:平成24年12月6日から25年12月末日まで)

北海道・ホクレン滝川スワイン・ステーション、(有)道南アグロ、富良野スワインファーム(有)、(有)山中畜産千歳農場、(有)中多寄農場、(有)サクセス森、**青森県**・(有)ふなばやし農産、同第3農場、神明畜産(株)八戸ファーム、**岩手県**・(有)ケアイファウム玉山農場、斉藤SPF農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、(農)八幡平洋野牧場、**秋田県**・(有)ポークランド、(株)ユキザワ雪沢GP、**山形県**・(有)最上川ファーム、(有)鮭川ピッグファーム、**宮城県**・(農)しわひめスワイン、(株)しまざき牧場蔵王高原農場、**福島県**・神明畜産(株)川内ファーム、(株)ユキザワ玉川農場、**茨城県**・(有)常陸牧場、(有)澤畑養豚センター、**群馬県**・(有)長

谷井畜産、ピックファームゴカン、利根沼田ドリームファーム(株)、**千葉県**・実川養豚、綱島良信養豚場、高森養豚場、小長谷養豚場、(有)菅井物産SPF農場、**長野県**・(有)ヤマイチファーム、**岡山県**・岡山JA畜産(株)吉備農場、(有)エム・ピー・エフやなはら、**愛媛県**・(株)ユキザワ大川農場、(株)ユキザワ丹原農場、**大分県**・(株)北九州ジェイエイ畜産大分SPF豚種豚農場、(株)北九州ジェイエイ畜産大分支社SEW安岐ファーム、**長崎県**・(有)芳寿牧場口之津農場、同国見農場、同島原農場、同新島原農場、(有)エス・イー・ダブリュー大西海ファーム、**宮崎県**・江夏商事(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、**鹿児島県**・(有)サツマ湧水事業所、(株)シムコ鶴田事業所阿久根農場、そお元気ファーム(株)持留農場、同久保崎農場 (以上51農場)

※次回認定委員会は平成25年3月7日(木)の予定



カワムラSPFファーム
川村 清一さん
●岩手県花巻市

細やかさとこだわりと内助の功が もたらした好成績

カワムラSPFファームは、岩手県盛岡市よりやや南に位置する花巻市^{おおはさま}大迫町にあります。大迫町は国の重要無形民俗文化財である“早池峰^{はやちねかぐら}神楽”と、ぶどう・りんご・ワインの生産が有名な、自然に恵まれたのどかな風景が広がる地域です。

この地で清一さんのお父さんが昭和48（1973）年、母豚60頭で養豚を開始され、その後長男の清一さんが受け継ぎ規模拡大。平成10年5月には豚舎を新築し、日本SPF豚協会の認定農場としてSPF豚生産をスタート、現在は母豚190頭規模で経営されています。

農場へは幾度となく訪問させていただいてますが、農場内外から豚舎内に至るまで、いつもきれいで清潔に保たれています。農場周辺に配慮してのことだそうです、その徹底ぶりには感心させられます。

清一さんは多彩な趣味をお持ちです。まずは釣り。岩手県の内陸部に位置する花巻市から宮城県塩釜まで遠征し、釣り船をチャーターしていたそうで、1日でカレイを100枚あげたという釣果の持ち主。釣るばかりでなく、釣った魚を自らさばき、調理することも楽しみの一つとのこと。お酒もお得意なので主に晩酌用でしょうか？一昨年の震災以降はご無沙汰になってしまっているのが残念なところです。

また、新築されたご自宅敷地内のガーデニング、もとい、造園。最近の訪問時でも以前はなかった立派な

池がいつの間にか出来上がっていて驚かされました。専門書でだいぶ研究されているようで、今後さらに立派な、ご自宅にふさわしいお庭になっていくことでしょう。さらに、新たに木工細工も始められ



たそうで、農場作業もこなしながら遊びも両立されているパワーには圧倒されるばかりです。趣味の一つ一つにも細やかさと並々なぬこだわりが感じられ、こうしたことが日常的な農場の作業にも通じているのではないかと感じます。

SPF豚生産を始めて14年、このたび協会の成績優秀CM農場表彰において、「商品化頭数部門」の最優秀賞を、同じく岩手県の八幡平ファームとともに受賞されました。好成績の要因は、清一さんの温かな中に垣間見えるこだわり、年数を経てなお成績向上を追求する気持ち、防疫意識の高さなど、挙げればきりがありませんが…、やはり何よりも、おおらかで働き者の奥様による「内助の功」ではないでしょうか？

この先、より厳しい畜産情勢に向かっていくことは必至ですが、さらなる生産性の向上と、儲かる養豚をめざしていただきたいと願って止みません。

(株)シムコ 若菜 和美

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年は巳年、蓄財できる年にしたいものです。そのためにも飼育環境を整備し、生産性を改善することが重要となります。ランニングコストの低減を目的に、費用対効果のあがる効率的な農場の増改築に取り組んでみる価値はありそうです。豚が快適かつ健康を維持する豚舎環境とはどういうものか。新鮮な空気と水、適切な湿度保持の工夫など自農場に当てはめて実証してみたいかがでしょう。さて、協会だよりも、会員・読者の皆さまのおかげで50号という節目を迎えることができました。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほど、重ねてお願いいたします。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会の

登録商標です

日本SPF豚協会だより

第50号 2013年1月1日発行(季刊)

発行 一般社団法人 日本SPF豚協会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2

TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376

e-mail : j.spf.a@nifty.com

http://www.j-spf.com/

発行人 北島 克好

編集人 藤田 世秀